ARCHECO　RAG構築・導入の資料

RAG構築のチェックリストと費用の目安

発注する側が、作る前・頼む前・作っている間に確かめることをまとめました。数字は2026年11月15日の時点（税別）です。

まず、RAGを作る必要があるか

御社の状況	おすすめ
文書が数十本まで・全員が同じ文書を見てよい・ほとんど改定がない	作らずに、ChatGPT の社内データ連携や Copilot などの既製の機能で試す（1人月3,000〜4,500円ほど）
部署ごとに見せてよい文書が違う／古い版が混ざる／業務の画面の中で答えたい（どれか1つでも）	RAGを作る価値があります
どちらか分からない	ARCHECOの30分の相談で、その場でお伝えします（無料・オンライン）

6つの手順と、確かめること

各手順に5項目、合わせて30項目です。できたら四角にチェックを入れてください。

❶ 手順1　本当に聞かれる質問と、文書の場所を確かめる

- ☐ 社員数人に「最近、何を探すのに時間がかかったか」を聞いた（1人30分ほど）
- ☐ その答えが、どこにあるか（各自のPC・共有フォルダ・業務のシステム）を確かめた
- ☐ 使う部署の担当者1人（質問の確認と「違う」の報告を見る）が決まった
- ☐ 情報システム部門の担当者1人（クラウドとログインの設定）が決まった
- ☐ 既製の機能（ChatGPT の社内データ連携・Copilot など）で足りないか、先に確かめた

❷ 手順2　文書を集めて整える

- ☐ 古い版と重複を外した（「どちらが最新か」の判断は人が行う）
- ☐ 表やスキャンした紙を、AIが読める形にした（スキャンは文字の読み取り＝OCR）
- ☐ 最新か分からない文書の一覧に答える担当者が決まった
- ☐ 手書きの文書が多いかを確かめた（多いと読み取りの確認に手間がかかり、費用が増える）
- ☐ 部署や役職ごとに、見てよい文書の範囲を書き出した

3 手順3　採点に使う質問と正解を作り、合格の点数を決める

- ☐ 社員が実際にする質問と、正しい答え（どの文書の何条か）の組を作った
- ☐ 本番の前に、100問ほど作った（外れた原因の傾向が見える数）
- ☐ 文書に答えがない質問も入れた
- ☐ 合格の点数を、作る前に数字で決めた（例：100問中85問が文書のとおり）
- ☐ 合格の点数・採点の質問・対象の文書を、書面で決めた

4 手順4　文書を探す仕組みを作る

- ☐ 文書を、見出しや条ごとに小分けにしている（規程なら「第○条」とその中の項を1つの塊に）
- ☐ 意味で探す（ベクトル検索）と、言葉で探す（キーワード検索）の両方ができる（ハイブリッド検索）
- ☐ 探した候補を、質問に近い順に並べ直して、上の5件をAIに渡している（リランキング）
- ☐ 見てはいけない文書は、探す前に絞っている
- ☐ 開発会社に「この3つ（小分け・2つの探し方・並べ直し）をやるか」を確かめた

5 手順5　答え方と、質問する画面を決める

- ☐ 元の文書を答えの下に並べ、ワンタップで開ける
- ☐ 文書に答えがないときは、作り話をせず「記載がありません」と問い合わせ先を案内する
- ☐ 結論を先に、数行で答える
- ☐ いつもの道具（Teams・Slack・業務のシステム）の中で質問できる
- ☐ 金額・期限・人事のような大事な判断は、元の文書で確かめる、と手順書に書いた

6 手順6　採点して直し、使い始めた後も続ける

- ☐ 手順3の質問で採点し、外れた理由ごとに数えた（探し損ね・古い版・答え方・その他）
- ☐ 直す順番を守った（文書の整理と区切り方 → 言葉でも探す → 並べ直し → 答え方 → モデルを替えるのは最後）
- ☐ 文書の更新と、見てよい人の変更が、毎晩自動で反映される
- ☐ 社員からの「違う」の報告を、週1回直す
- ☐ 月1回、同じ質問で採点し直す

頼んだ場合の2か月の流れ（目安）
1〜2週目 聞き取り・文書の場所の確認／3〜4週目 文書の整理と、採点の質問と正解の案づくり／5〜6週目 探す仕組みと画面、見てよい範囲の試験／7〜8週目 採点と手直し、使い始め

費用の相場と、ARCHECOの型

世の中の相場（2026年11月に確認した公開価格の範囲）

	試作・小さな導入	本番	運用
世の中の相場	50万〜300万円	300万〜1,000万円	月10万〜50万円
ARCHECO	無料の20問比較	320万円から	月15万円から（任意）

出どころ：AI革命「RAG導入の費用」（2026年11月更新）、GXO「RAG導入の費用相場と内訳」（2026年4月）。

ARCHECOの構築の型（税別）

型	範囲	期間	費用
小	部署1つが、1種類の文書に質問する（例：総務部が社内規程一式に）	2か月	320万円から
中	種類の違う文書や、複数の置き場所をまとめる。人ごとに見せる範囲を分ける	3か月	480万〜800万円
大	全社で使う。社内の共通ログインとつなぎ、部署ごとに採点する	4〜6か月	900万〜1,600万円

320万円に含むもの：文書の整理（数千件まで）、文書を探す仕組み、質問する画面1つ、利用者300人まで、正しさの採点、運用の手順書、使い始めて1か月の手直し。**含まないもの**：AIとクラウドの利用料。
構築費は人数ではなく、文書と見せる範囲の複雑さで決まります。

月の利用料の計算（使い始めてから、毎月かならずかかる費用）

月の利用料 ＝ 約3万円（固定） ＋ 質問の回数 × 約5円

項目	月額
文書を探す仕組みと保管（文書数千件まで）	約3万円（固定）
AIの利用料（質問1回あたり約5円 × 3,000回）	約1.5万円
合計（社員300人・月3,000回の例）	**約4.5万円**
運用をARCHECOに任せる場合（文書の更新の確認、「違う」の報告の手直し、月1回の採点）	15万円から（任意）

質問が月300回なら約3.2万円、月1,000回なら約3.5万円、月10,000回なら約8万円。文書が数千件を超えると固定分が増えます。AIの単価は2026年11月の gpt-5.4 の公開単価をもとに高めに見積もり、1回に質問と文書の該当部分 約5,000字を読む前提です。月の質問回数は「社員数 × 1人1日の質問回数 × 稼働日20日」で出せます（試算ツールあり）。

どの会社に頼む場合も、確かめる6つ

1. **御社の文書で、作る前に比べてくれるか**（見本の文書ではなく）
2. **合格の点数を、数字で先に決めるか**
3. **見てよい範囲の試験を、全員の立場でやるか**
4. **古い版や文書の更新を、どう反映するか**
5. **作ったものが御社のものになるか**（契約を終えても使えるか）
6. **その会社が自分でもRAGを使っているか**

打ち合わせでそのまま聞ける形

- 御社の文書20問で、丸ごと渡す方法とRAGを、作る前に比べてもらえますか。
- 合格の点数（例：100問中85問が文書のとおり）を、契約の前に決められますか。
- 見てよい範囲の試験を、部署や役職ごとの全員の立場でやりますか。
- 文書の更新や古い版の扱いは、毎晩自動で反映されますか。
- ソースコード・設定・採点表は、御社のものになりますか。契約を終えても使い続けられますか。
- 貴社は、同じ仕組みを自社で毎日使っていますか。

費用が増える3つの条件

- **種類の違う文書を混ぜる**：質問も正しい答えの形も違うため、採点と探し方を種類ごとに作る
- **見せてよい範囲を分ける**：すべての立場で漏れがないかを試験する
- **古い版や重複が多い**：どれが最新かを確かめ、古い版を外す作業が増える

ARCHECOの答え（頼む場合）

- 無料の20問比較：御社の文書20問で、丸ごと読ませる方法とRAGの正しさと月の費用を比べます（約2週間）。
- 正しさの約束：着手の前に合格の点数と採点の質問を書面で決め、納品の時点で届かないときは、届くまでの手直しの費用はいただきません（納品から最長2か月）。
- 納品物：ソースコード、設定、採点表、権限の試験の結果、運用の手順書。すべて御社のクラウドに置き、御社のものになります。
- ARCHECOは同じ仕組みを社内で毎日使っています。

迷うときは、30分の相談（無料・オンライン・文書も決裁も不要）

相談には、営業の担当ではなく、RAGを作っている技術の担当者が出ます。

株式会社ARCHECO　東京都渋谷区神宮前1-15-4